

精神疾患をもった舌腫瘍患者の ラジウム針治療を行なった症例

R I 病棟：発表者 矢崎 照子
藤原 昭子・赤羽ヨシエ・百瀬香絵子

I はじめに

R I 病棟では、舌腫瘍、口腔内腫瘍などで、手術の適応にならない症例を主として、ラジウム針治療を行なってきた。年齢層は30歳～80歳代と、幅が広い。治療方法が他の病棟と異なり、症例としては画期的なものはないが、今回年齢も若く、特に、精神疾患を持った患者の治療に当たり、患者を理解し安楽と安全保護につとめ、治療終了した症例を経験したので、ここに報告する。

II 研究期間

昭和63年3月23日～4月3日（24日刺入）

III 患者紹介

氏名：T氏 男性 38歳 未婚 身長175 cm 体重83 kg

学歴：某大学中退 定職なし

病名：舌腫瘍（右舌縁部に1.5 cm × 2.0 cmの腫瘍あり）

糖尿病

精神分裂病にて某病院で、入退院繰り返し、現在7回目の入院中。入院中の病院より外勤している（仕事内容は精密なものを扱っている）。

趣味：多趣味で特に勉強が好き。

家族構成：両親は健在。妹、弟はそれぞれ独立している。両親からは自立するように言われている。

（転室までの経過）

3月8日放射線科外来より、11日ニードリング予定で治療の予約が入る。夕方になり医師より、患者は精神分裂病で某病院入院中だが、紹介状持参し、1人で受診。現在症状は安定期に入っている。治療について話したところ、「大丈夫出来る。」と言って帰宅したと、話しがあった。3月9日放射線科入院。直後より感冒症状（発熱、咳そう）あり治療延期となったが症状軽快し、3月23日治療のため転室となった。24日ラジウム針1 mci 6本刺入、4月3日抜針となる。

IV 予測される問題点と看護の実際

1. 問題点

- (1) ストレスが誘因となり発作的行動が生ずる危険性がある。
- (2) 舌の安静のため会話不可。筆談となる。
- (3) 経口摂取不可、経管栄養食となる。

(4) 疼痛及び空調音による不眠が考えられる。

(5) 行動範囲に制限がある。

(6) 糖尿病がある。

2. 看護目標

ラジウム針刺入によるストレスの軽減に努める。

3. 看護の実際

(1)について：訪室時の接し方についてカンファレンスをもち一貫した対応をする様に話し合い実施した。

① 会話など命令的な口調にならないようにし明るい表情で接する。

② 病室入り口での声掛けはしない。必ずベッドサイドに立つ。

③ 被曝を考慮した上で、出来る限り頻回に訪問して声掛けを行い言動、表情の観察を行う。

④ 患者の安楽のため夜間は眠れるよう配慮する。

⑤ ラジウム針刺入部位の観察。特に本数の確認を行い異常の早期発見につとめる。

(2)について：前もって筆談の必要性をよく説明した。

(3)について：エレンタールは消灯頃迄に終了するようにした。EDチューブが抜けたりしないよう確実に固定する。エレンタールによる胃部不快感、下痢など症状の出現に留意していく。

(4)について：疼痛あれば、我慢しなくて良いことを話し、注射、坐薬など使った。

(5)について：病室とトイレのみの生活となるので、テレビを見たり本を読むことなど気分転換が図れるよう勧めた。

(6)について：オイグルコン1日5錠内服中であるため、エレンタール1日5パックを確実に注入することにより低血糖の予防につとめた。

V 結果・考察

ラジウム針刺入により線源体としての規制が加わる上に疼痛、口内異和感、歯磨き、入浴もできないなどストレスの多い治療と思われる、7日間内至10日間、それに耐えることができるだろうか。一番の課題であった。前もって医師を交えてのカンファレンスを持ち、眠剤の量を調整することにより夜間は充分な睡眠を取れるようにする。もし発作的行動が起きたときは直ちに治療を中止するという話し合いのもとで治療が開始された。

治療中にEDチューブが抜け挿入したり、ラジウム針の自然抜針もあったが、患者の日常生活の前半はやや陰い表情も時には見られたが、テレビを見たり、読書をしながら過ごしていた。後半は眠剤を増量している事もあり、終日うとうとしている事が多く、検温も声を掛けないとやらなくなったが、特に陰い表情はみうけられなかった。更衣、清拭、髭剃りなど促したが、抜針2日前になりやっと介助して行った。引き継ぎ時に、患者の状態を詳細に申し送りし、充分把握しながら看護に当たったところ、突発事故もなく終了した。精神疾患をもった患者の治療は初めてのことであった。この症例を通して、転室前に患者を訪問し、早期に患者を良く理解し看護にあたらなければならぬことを痛感した。と同時に、短期間の入院治療の中で、被曝を考慮した上で、コミュニケーションを充分とることの難しさも感じた。

IV おわりに

今回の経験を大切に、今後R I病室での入院生活が少しでも安楽に過ごせるよう援助して行きたい。

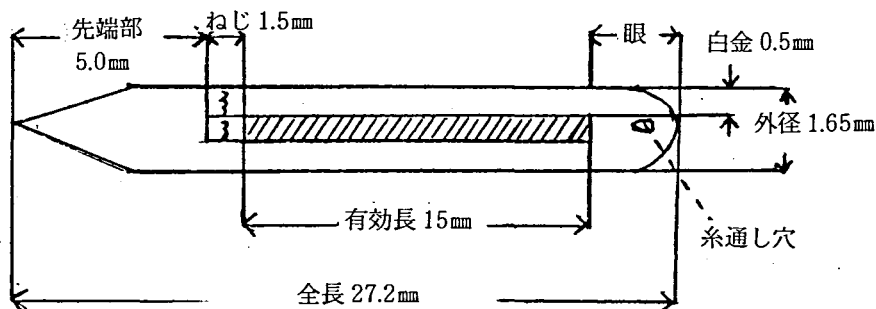


図-1 ラジウム針の略図

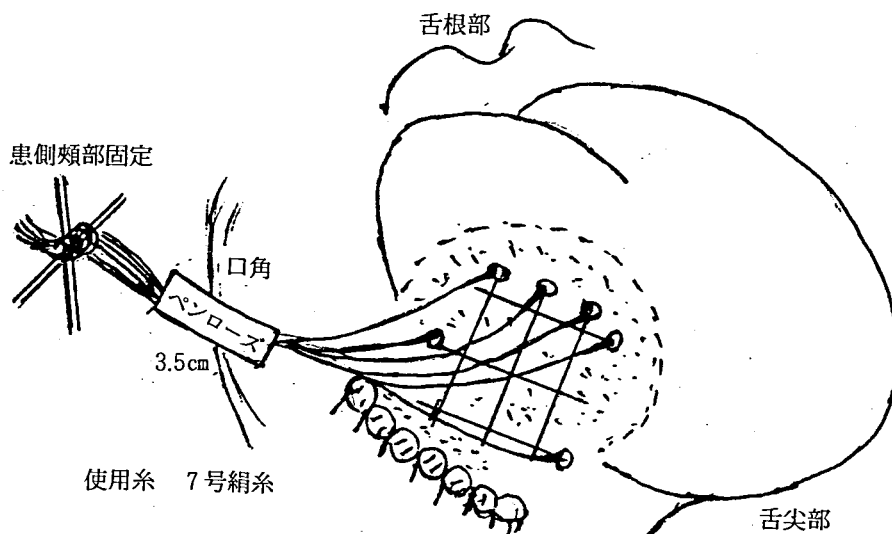


図-2 刺入部の略図

引用文献

- 1) 田崎瑛生：放射線医学と看護，〈現代看護研究講座テキスト〉，ブレインサービスKK主催，1976，p 64

参考文献

- 1) 平山朝子他：精神分裂病患者の看護，〈慢性疾患看護シリーズ3〉，日本看護協会出版会第6版，1980，p 107～125
- 2) 吉松和哉：精神分裂病者の入院治療，〈治療する対象とその目標〉，医学書院第1版，1979，p 20～33
- 3) 片山美奈子他：患者ケアを中心とした新しい放射線看護，〈密封小線源治療の基礎知識〉，医学書院第1版，1985，p 112～117